| | |
|---|---|
| 事例No. | 1291 |
| 公表年度 | R1 |
| 団体の属性 | 一般市 |
| 団体名 | 秋田県大館市 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 地域活性化 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・関係人口 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 関係人口 |

事例内容・タイトル

縄文食で大館市とつながるプロジェクト

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

# 1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

## 地域の概要

地域名：秋田県大館市
人　　口：73,632人（2018年）

- 大館市は、2005年の合併によって、現在の市域が形成されました。合併当時の人口は82,504人でしたが、少子高齢化の加速や市外流出を要因に、以降年間1,000人規模の減が続いています。
- 本市の産業は、鉱山と農林業が盛んでしたが、世界的な石油危機のあおりで、1994年に市内すべての鉱山が閉山したことや農林業の衰退により市全体の就業者数も減少し続けています。企業誘致等の対策により、今の主要産業は資源リサイクル産業や医療用機器・医薬品製造などの健康産業となっています。
- 渋谷駅のハチ公像でおなじみの秋田犬の忠犬ハチ公は大館市がふるさとであり、天然記念物に指定されている比内鶏も大館地方の地鶏です。大館は山菜の宝庫でもあります。その山菜のセリや日本三大美味鶏の比内地鶏をふんだんに使ってきりたんぽを作ることから、大館市はきりたんぽの本場と言われています。
- 本市は歴史的風致維持向上計画の認定を受け、歴史を生かしたまちづくりに取り組んでいます。
- 北海道・北東北の縄文遺跡群は世界遺産登録を目指しており、2019年に「北海道・北東北の縄文遺跡群」のユネスコ推薦が正式に決定されております。

## 解決したい地域課題

- 大館市では年間1,000人規模の減が続いており、老年人口と年少人口の割合は、1990年を境に逆転し、2015年には、老年人口の割合が35.9%、年少人口の割合が10.3%となり、少子高齢化が進行しています。生産年齢人口が減少する中でも、地域経済の活性化と賑わいづくりの推進が必要で、若年者の地元定着、高齢者の就業機会の向上、女性の就労支援をこれまで以上に推進する必要がある。

## 本事業に取り組むに至った背景

- 少子高齢化が進行、年間1,000人規模の減が続いている。こうした中、2017年に国から歴史的風致維持向上計画の認定を受け、歴史を生かしたまちづくりに取り組んでいるところです。また、市の近隣には縄文時代の遺跡群があり世界文化遺産の登録を目指しており、地域が一丸となって人口減少を少しでも食い止めるためにも、都市部の方々との関係人口を創出し、地域経済の活性化を図っていく必要があることから、事業に取り組むことにした。

# 2. 事業概要

## ●事業概要

＜ターゲット＞
- 「大館市に行ってみたい方や関心のある方」（学生及び都市住民の方

＜概要＞
- 説明会及び現地ツアーを実施した後で、大館市から発信できる縄文食や山菜等を利用した料理などについて試食会等を開催し、地元住民と交流
- 「縄文の食」をテーマに考えていたため、3年前から交流があった女子栄養大は関係案内人にうってつけであると考え選定。

＜実施事項＞
- 都市部での地域学習講座（1回）
- 地域視察ツアー（1回）
- 地域ワークショップ（試食・交流会）（1回）
- 試食会in比内とりの市（計画になく追加実施）

※試食会in比内とりの市は、縄文に関する食が受け入れられるかどうかを確認するため、試食会を増やし、事業の説明を受けていない一般の方からも意見を募ることにした。地域の祭りである「比内とりの市」で実施。

## ●地域の理想の姿

- 関係案内人の協力を得て、縄文にまつわる食や地元の山菜資源などを使ったものなど、大館ならではの特色あるものを新たに創出し、情報発信していき、更に、大館の食を食べていただき、大館産の美味しい食材を知ってもらい、大館の食のブランド化を図っていきたい。

## ●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

- 大館ならではの特色ある縄文風創作料理を始めとした大館の食のPRにより、大館のファンになっていただくことで、大館の情報発信を図り、関係人口創出を図る。また、大館市民に対しても、大館には宝がいっぱいあるのだということを知ってもらい、関係人口創出の一翼を担ってもらいたい。

## ●本年度の目標

- 地域学習講座：１２人以上
- 地域視察ツアー：１２人
- 地域ワークショップ（試食・交流会）：１２人
- 試食会in比内とりの市（４種類各３０食を提供。アンケート回収率７０％以上）
- 大館市民にも大館には宝がいっぱいあることを知ってもらう。
- 飲食店で縄文食の提供。

# 3.事業実施体制・スケジュール

## ●事業実施体制（受け入れ体制を含む）

- 大館市は委託事業の管理、募集・広報、都市住民等に提供する取組の企画立案やイベント実施。
- 関係案内人として女子栄養大学が中心的な役割を担った。都市住民の紹介、縄文の食のメニューの開発など、学生からの支援も頂いている。
- 大館市まるごと体験推進協議会は、大館市地域ツアーの際に、大館の歴史や民泊農家を通して食を肌で感じられるような役割

| | 組織・団体名等 | 役割 |
|---|---|---|
| 1 | 大館市 | 委託事業の管理、募集・広報、都市住民等に提供する取組の企画立案・実施等。 |
| 2 | 女子栄養大学 | 【関係案内人】 |
| 3 | 女子栄養大学の学生 | 縄文の食のメニューの開発、【関係人口】 |
| 4 | 鶴ヶ島市(農家グループ) | 【関係人口】 |
| 5 | 大館市まるごと体験推進協議会 | 農家民泊・農業体験を通じた、農村の情報提供等 |

## ●スケジュール

| 実施事項 | 5月 | | | 6月 | | | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | | | 12月 | | | 1月 | | | 2月 | | | 3月 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 |
| 1 東京都での地域学習講座準備・開催 | | | | 開催準備 | | | | | | | | | | ★ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 地域での地域視察ツアー準備・開催 | | | | | | | 開催準備 | | | | | | | | ★ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 地域での地域ワークショップ準備・開催 | | | | | | | | | | | | | | | | 開催準備 | | | | | ★ | | | | | | | | | | | | |
| 4 試食会の準備・開催（地元のお祭りで試食会・アンケート） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 開催準備 | | | ★ | | | | | | | | |
| 5 成果分析（参加者アンケートの分析・報告書作成等） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 成果分析・報告書作成 | | | | | ★ | | | | | | |

- 縄文に関する食が受け入れられるかどうかを確認するため、試食会を増やし、事業の説明を受けていない一般の方からも意見を募ることにした。地域の祭りで実施。4種類30食を提供し、7割以上のアンケート回収率を目標とした。
- その他は予定通り。

# 4.事業の「ターゲット」

## ●事業のターゲット

- ターゲットは、「交流」という観点からすると、「地元」と「都市住民」の方々があり、その中で「都市住民」のターゲットは「大学の学生」、及び大学とのつながりのある（学生以外の）住民の方で「大館市に行ってみたい方や関心のある方」をターゲットとした。
- 地元のターゲットは、都市住民を受け入れてくれる「農家民宿」の方、食を提供してくれるようになる飲食店の方など、食を通じて交流をはかれる方々とした。

## ●参加者募集のターゲットの設定経緯

- 関係案内人である女子栄養大学とは3年ほど前から農林水産省の山村活性化支援交付金事業で交流があり、また、「縄文の食」をテーマに考えていたため、食を専門として研究している大学はうってつけであると考えた。さらに今回、大館に訪問していただいた同大学の平口先生は、以前は秋田県立大学に勤めていたこともあり、大館市について知見をお持ちだった。それもあって、今回の事業を相談した際には、スムーズに了解をいただくことができた。
- 関係案内人の先生から鶴ヶ島市の農家グループとのコネクションに関するご提案を頂いた。

## ●ターゲットへの広報・アプローチ

【実施事項】
- 地域学習講座の開催チラシを作成。関係案内人の女子栄養大学内部で配布していただいたほか、鶴ヶ島市の農家グループや飲食店の方々にも配布して募集を行った。
- ２回のツアーについて、都市部での地域学習講座でツアーの説明を行い、地域学習講座の参加者からツアー参加者を募った。
- 地元の参加者は、農泊の他、農業や飲食店の方々にお声がけしてくださるよう各種団体の女性部の方々にお願いして、食を通じて交流がはかれるようにし、大館の宝を知ってもらいたい高校生にも声を掛けた。

【成果・効果】
- 都市部での地域学習講座は女子栄養大学の先生のご尽力もあり、参加者26人。
- 地域視察ツアーは地域学習講座の参加者からツアー参加者を募り、参加者１２人。
- 地域ワークショップ（試食・交流会）は地域視察ツアーとほぼ同じ方が参加、学生さんが追加で参加を希望し、１人増の１３人が参加し、交流を行った。
- 地域ワークショップに地元からは高校生8人を含む住民33人が参加、調理や試食をしながらの交流を図った。また、以前関係案内人が勤めていた公立大学の学生さん8人も来ていただき、試食や学生同士の交流も行い、大館を知ってもらった。

# 5.関係人口の活動内容

## ●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容

＜地域視察ツアー＞
【日程】2019年9月22日～23日(大館市)
【参加者】12人

- 民泊して農作業等を体験すると共に、市の歴史を始めとした現状に触れ、世界遺産の国内推薦候補に選ばれた遺跡を視察した。

| ツアー日程 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 9/22 | 8:55 | 羽田空港　発 | 9/23 | 9:00 | リンゴもぎ体験 |
| （日） | 11:00 | 秋田犬の里見学 | （祝） | 10:00 | 比内地鶏圃場、とんぶり畑見学 |
| | 11:45 | 鳥潟会館見学・昼食 | | 11:30 | 中山そば打ち体験・昼食 |
| | 13:45 | 郷土博物館見学 | | 14:00 | 地元スーパーで大館の食材に触れる |
| | 15:45 | 各農家民宿へ | | 15:30 | 国指定遺跡伊勢堂岱遺跡見学 |
| | | 〈夕食〉きりたんぽ鍋作り体験 | | 18:00 | 大館能代空港　発 |






＜地域視察ツアー＞
【日程】2019年11月24日～26日(大館市)
【参加者】13人

- 都市住民と大館市の参加者が縄文時代の食(料理)を連想できるような試作品を作り、試食を行いながら交流を深めた。

| ツアー日程 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 11/24 | 8:55 | 羽田空港　発 | 11/25 | 9:00 | 試食会　受付 |
| （日） | 11:00 | 11:30　桜櫓館見学 | （月） | 9:30 | 調理 |
| | 11:45 | 12:00　秋田比内や（昼食） | | 13:00 | 試食会及び交流会 |
| | 13:45 | 13:00　秋田犬会館見学 | | 15:00 | 試食会及び交流会終了 |
| | 15:45 | 14:00　試作品用材料購入 | | | |
| | | 15:30　会場準備 | 11/26 | 8:45 | 陽気な母さんの店見学 |
| | | | （火） | 10:45 | 大館能代空港　発 |






# 6.活動の成果

## ●本年度の目標達成状況

- 地域学習講座：26人（目標:12人以上）
- 地域視察ツアー：12人（目標:12人）
- 地域ワークショップ：13人（目標:12人）
- 試食会in比内とりの市(4種類各30食を提供)
  ：アンケート回収率80%（目標：70%以上）

✓ 企画時は、参加者を遺跡ファンや郷土料理ファンを想定していたが、実際の参加者は、農家の方や料理人、料理を勉強している学生であった。
✓ 講座やツアー参加者はいずれも目標を上回った。
✓ 当初の予定にはなかったが、縄文に関する食が受け入れられるかどうかを確認するため、事業の説明を受けていない一般の方からも意見を募ることにし、「試食会in比内とりの市」として、地域の祭りである「比内とりの市」で合計120食を提供した。

## ●関係人口の地域との関わり方

- 都市部からの参加者全員が今後大館市との交流の継続を希望しています。
- 女子栄養大の学生さん方は、「ふるさと納税で大館市を見るようになった」、「きりたんぽ鍋を作るようになった」、「大館（秋田）で働きたいと思った」などの感想が寄せられました。実際に、来年、秋田県の教職の試験を受けられる学生もいらっしゃいました。
- 鶴ヶ島の農家の方々は、大館市をＰＲしたいという方もいらっしゃいましたし、地元に戻った後も、きりたんぽの忘年会を行ったり、美彩館（アンテナショップ）での新年会を企画したりしており、確実に大館を知っていただいて、興味を持っていただきました。

## ●その他の成果

- 地域ワークショップ（試食・交流会）及び試食会in比内とりの市の2回試食会を開催。それぞれの試食会でレシピを配布しており、一般市民の方も作れるように工夫した。
- 事業に協力してくださった『陽気な母さんの店』や市内の飲食店『あきたさくら』では、メニューの中に組み込んでいただいており、普段の料理に小鉢として２～３種類を入れて食べていただいており、好評ですよとのお話でした。



# 7.課題への対応

## ●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

＜参加者の募集＞

- 都市住民の参加者を募集するにあたり、明確な手立てがなく、漠然と、東京事務所やアンテナショップなどで人集めしても集まらなかったと思います。
- 今回、関係案内人を設定できたことで、鶴ヶ島市(農家グループ)とのコネクションができ、参加者が集まった。

＜縄文風創作料理のメニュー考案＞

- 縄文食をテーマにしたが、米が日本に伝わったのが縄文後期で、縄文食を考えるにあたって、米料理を考えることができないことが後で分かり、米どころ秋田の強みを出すことができなかった。
- メニュー考案は秋田市出身の女子栄養大の学生さんが中心になって考えてくださいました。秋田の食材にも詳しく、大館特産の山の芋やとんぶり、比内地鶏などを使い、大館市をPRするのにふさわしい料理が出来上がりました。

## ●今後の課題と対応方針

＜大館の食の魅力の発信＞

- 視察ツアーのアンケートからも大館市の「食」が美味しいというのは、皆さんが言ってくださっており、「食」に目をつけたのは良かったと考えている。また、「関係人口」の創出・拡大を図っていくうえで、本市の持つ「食」が「関係人口」創出・拡大には大きな魅力であると感じたところであり、今後は周知・拡大を含めて、「食材」をどの様に活かしていくかという点を関係案内人(大学）の先生方と一緒に検討していきたい。

＜縄文風創作料理の定着＞

- また、せっかく作った縄文風創作料理を大館市内の飲食業界に根付かせることができるかどうかについても、地域ワークショップ（試食・交流会）で参加してくださった飲食店の方と一緒に検討していきたいと思っています。

# 8.将来への展望

## ●来年度以降の関係人口とのかかわり方

- 今回、女子栄養大の学生や先生方と、鶴ヶ島市の農家のグループの方と関係を築くことができた。今後は予算が付くかどうかにもよるが、女子栄養大の方々とは、大館産農畜産物（特に山菜）を使ったレシピ集の作成と、作成過程での交流、ＰＲによるファン獲得。鶴ヶ島市の農家のグループの方々とは、産業祭にお邪魔するなどして、郷土料理のきりたんぽの紹介や交流会を開催し、関係を深めると共に、関係人口が更に広がるようにしていきたい。

## ●「関係人口」施策の展望

- 本年度事業で生み出し、関係性が深まった「関係人口」と関係を深め、関係人口が更に広がるようにしていく必要がある。それには予算に左右される部分があることから、地方創生推進交付金や「関係人口創出・拡大」モデル事業等必要な事業を活用しながら、今回関係を築くことができた女子栄養大の学生や先生方及び鶴ヶ島市の農家のグループの方々と更なる関係の深化を図っていきたい。
- また、更に「食」による「関係人口」の拡大・創出を図っていきたい。そのためには、大館産の美味しい食材を知ってもらう必要がある。大館の食を食べていただき、大館のファンを増やし、大館の食のブランド化を図りたい。